



ありがとうの気持ち

校長 垣崎 晃

新年明けましておめでとうございます。今年も教職員一同子供たちのために誠心誠意努力いたします。保護者の皆様、地域の皆様、ご関係の皆様には、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

年末、子供たちに「お正月何が楽しみ」と聞いたところ、「おいしい料理が楽しみ。」という声が聞かれました。普段あまり食べることのないお正月料理。皆様も満喫されたのではないかと思います。

食事の前に「いただきます」と言って食べ始め、食べ終わったら、「ごちそうさま」と言って箸を置くことは、日本ではあまりにも当然の常識になっています。それは、「料理をしてくれた人への感謝」「食材を生産してくれた人への感謝」「見えないところでかかわってくれている人への感謝」「生きていてこうして食事ができることへの感謝」そして「そのおおもとになっている自然の恵みや生命への感謝」等々の素直な気持ちが「いただきます」と「ごちそうさま」に集約されているのだと思います。

何年前のことですが、ネット上で、給食費を払っているのだから「いただきます」をいう必要はないと学校に申し出た保護者がいる、という話がありました。世間の話題になったとき、「あなたの考えがおかしい」と語る方がほとんどだったのを覚えています。

レストランなどで「いただきます」「ごちそうさま」と言う人が多いのは、食事にかかわってくれた方々への感謝と食材への感謝の意味合いがあるということです。つまり、自分でお金を払っているから、言わなくてよい、ご馳走されたときだけ、「いただきます」「ごちそうさま」をする浅はかなものではないのです。自然の恵みや生命への畏敬の念、食事ができる自分の存在への感謝、それを可能にしてくれる人々への感謝の心など、もっともっと奥の深いものがあると考えられます。

学校では、土曜日を除き、給食がほとんど毎日おこなわれています。残念ながら、給食中の会話はしないように指導していますが、子供たちが自然な姿で「いただきます」が言え、「おいしかったです。ごちそうさま。」と言えるよう育んでまいりたいと思っています。

・・・お知らせ・・・

先月もお知らせいたしました、12月、1月の土曜日に計画していた道徳授業地区公開講座は、新型コロナウイルスの「第3波」により、実施を中止いたします。今後の学校公開については、コロナの収束状況により、実施の検討をしていきます。ご理解をよろしくお願いいたします。